

⑦んどういっぽい ⑧キドキいっぽい ⑨クワクいっぽい ⑩ラキラ輝く 大野木場小学校便り №.44



かどわきっ子

令和7年12月19日（金）
南島原市立大野木場小学校
校長 森田 純弘

笑顔あふれる学校

今年度、大野木場小学校では特別活動の学びを通して「進んで表現するかどわきっ子」の育成に努めています。（31、32、36号参照）その取組をいくつか御紹介します。

①学級会の充実

学校生活の充実や諸問題を解決することを目指して話し合い活動（学級会）を充実させています。児童から議題を募り、議長団を形成して準備し、計画的に話し合いを行います。意見の出し方、つなげ方、話し合いの進め方などが、ずいぶん上手になりました。最初はたどたどしかった議長も、自分で考えて話し合いを進めることができるようになってきました。

各学級の話し合いが充実するにしたがって、代表委員会での話し合いも変化してきました。まず変わったのは「質問」です。自分の意見がはっきりしているからこそ、他の意見とすり合わせて妥協点を探るための質問をするようになっています。そのうえで「合意形成」に成長が見られるようになってきました。

②委員会活動の充実

委員会活動は、学校生活をよりよくするためのものです。しかし、当番活動に終始してしまうこともあります。当番活動を工夫することはもちろんですが、学校生活を豊かにするために何ができるのかを考えることも必要です。各委員会が、自分たちがやるべきことを考え、工夫して頑張っています。

一例をあげると、来週22日（月）には、放送・掲示委員会がクリスマスパーティーを計画しています。内容は、「①クリスマスツリーを作ろう、②サンタさんの笑い声選手権」となっています。みんなが楽しめるように工夫してくれているのが、とても嬉しいです。

③かどわきコンサートの開催

これまでの内容は、「歌、リコーダー、ピアノ、合奏、けん玉、マット運動、英語暗唱、ダンス、笑い声」など多岐にわたっています。中村真子

先生が子どもたちに呼び掛けて、出場したい人を募集して、自由に発表しています。ちょっとした学習発表会、かくし芸大会のような感じです。

毎休みに玄関奥のホールで開催しているのですが、出る人も見る人もとても楽しみにしています。緊張や驚き、拍手や笑顔。この人には、こんな特技があったんだと新たな発見があります。私も〇〇できますよと負けん気を出してきたりといろんな表情を見ることができます。

学校生活を楽しいものにするのは、子どもたち自身です。やらされているのではなく、やりたいことをやってみる。たとえ失敗しても、次の課題にすればいい。私たち大人はこれまでの経験が豊富ですから、ついつい先回りしていろんな助言や声掛けをしてしまいかちです。主体的な取組の経験が、主体的な学びに繋がる。充実した生活が、子どもたちの笑顔につながる。このことを信じて、これからも子どもたちの「やってみたい！」を応援したいと思います。

今週から、2年1組担任の中村真子先生が産前休暇に入っています。昨今の教員不足により、代わりの先生はまだ決まっていません。月曜日からは、校内の職員で分担して、子どもたちが安心して学習したり生活したりできるように努めているところです。

3学期以降は配置ができるように、県教委・市教委ともに調整をしていただいている。決まりしだい皆様にお知らせいたします。

1月のおもな行事

8日（木）	始業式、集団下校
14日（水）	面談週間（～20日）
15日（木）	書初め展（～16日）、委員会活動
16日（金）	授業参観・学級部会
22日（木）	6年制服採寸・薬物乱用防止教室 3年校外学習（警察署・消防署） クラブ活動・給食集会
23日（金）	4年校外学習（ろくべえ作り）
28日（水）	ぶうこ＆ニヤーコのかどわきコンサート
29日（木）	代表委員会
30日（金）	3年食育教室